

赤ちゃんの泣きの特徴について

赤ちゃんは泣くのが仕事、泣いて当たり前。とは言っても、赤ちゃんが泣きやまないと、不安になることもあるでしょう。ストレスを感じ、つい感情的になってしまうことがあるかもしれません。そんなときは、周囲に協力をお願いしたり、行政・民間サービスを利用したりして、1人で抱え込まないようにしましょう。

👉 赤ちゃんが泣きだしたら

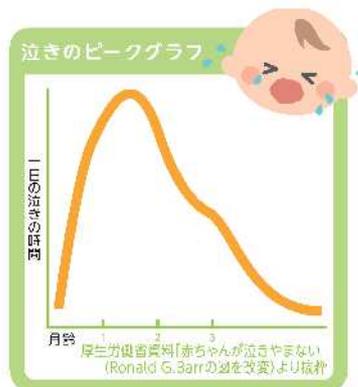
まずは赤ちゃんの様子を見て、どうして泣いているのか理由を探ってみましょう。泣きやませる方法は、原因や赤ちゃんによってさまざまです。ただ、夕方なたそがれ泣きや夜泣きのように、これといった理由もなく泣き出してしまこともあります。また、赤ちゃんがお母さんのお腹の中にいたときの状態を思い出させてあげるのも効果的な場合があります。おくるみで包んであげる、「シー」という音を聞かせる、ビニールをクシャクシャさせる。その他に、ドライブに行くなど、心地よい振動で泣きやむこともあります。いろいろ試してみましょう。泣き方や様子に普段と違うところがあれば、注意深く様子を見て、かかりつけ医や専門医に相談しましょう。

👉 何をやっても泣きやまない・・・

色んな方法を試しても泣きやまないときは、赤ちゃんをベビーベッドなどの安全なところに寝かせたり、ほかの人に抱っこしてもらったりして、すこしの間赤ちゃんから離れて休憩してみてください(長時間の放置はやめましょう)。お茶を飲んだり、好きな音楽を聴いたり、電話で話したりして、リラックスしましょう。泣きやまないからといって、自分を責めてはいけません。泣かれてイライラするのはよくわかりますが、イライラして赤ちゃんをあやしても赤ちゃんは決して泣きやみません。気持ちが落ち着いたら、戻って赤ちゃんの様子を確認しましょう。

👉 乳幼児揺さぶられ症候群

泣きやまないからといって、無理に泣きやませようと激しく揺さぶったり、赤ちゃんの口をふさいだりしてはいけません。赤ちゃんの命にかかわる重大な事故に繋がる恐れがあります。



赤ちゃんの泣きへの対応はこちらも参考にしてください。

厚生労働省動画「赤ちゃんが泣きやまない」

